

歌唱法大要

目白幼稚園保姆養成所講師 沼田利一

歌唱法の講習會、獨習會等を催した地の保姆、音樂科教員等からの練習法、呼吸法、發聲法等について受けた質問の答と、斯界一般研究者の爲めに述べる。

リル・レーマンは「聲樂の途を進む者は少くも六年間の準備勉強が必要で、それから段々と改善を遂げて行く爲め全生涯を擧げて努力せねばならぬ」と言はれたが歌唱藝術には決して近道はない。教師は男子たるも、婦人たることを問わず誠實で熱心な人格者で實際に唱ふことの出来る人でなければならぬ。惡るい教師に就て大切な聲を臺なしにして私の所へ來る生徒も少くない。生徒の惡る

い所を見分けたり矯したり出來ぬ藪醫者に惡るく教へ込まれた生徒は、取り返しのかかぬ、自分を知り失望の涙で歸る。如何なる場合にも決して無理をして唱つてはならぬ。

保姆・音樂科教員等は、毎日を永い時間唱ふのであるから、特に呼吸法・發聲法に注意せねば身體を害したり、聲を失つてしまふ様なことになる。歌唱法の通信教授は至難な事であるが、發聲法を教える聲樂教師の求め難き地方に於ける研究者の一助ともならば、自分の幸福とする所である。健康には特に注意し、刺戟の強い飲食物、消化し難い物はさき、食後二時間は唱はぬを良しとす

る、また餘り激しい運動、喫煙は禁止する、規則正しい食事と適當な運動、充分な睡眠が必要である。

各人種々な音質、音域を備えて居るのであるから自分自身の音域を知つて、無理な唱ひ方をしてはならぬ。

女聲はソプラノ C音から二オクターブ

アルト E音から二オクターブ

男聲はテノール C音から二オクターブ

バス ホ音から二オクターブ

此の中間にバリトンとメッツォソプラノとがある。

變聲期前の兒童の聲は、男女共ソプラノとして、取り扱ふも、兒童の弱い聲帯を害ふ様な高い音の多い唱歌はさける様に、また學齡に達せぬ幼兒にはD音以上の音は唱はしてはならぬ。

次回には姿勢・呼吸法に就いて述べる。發聲器

官に關する解剖學、生理學を知つてをかけた。

原稿募 集

幼兒教育に關する

研 究
感 想
その他種々

會員諸氏の御寄稿を歓迎致します

用紙 字數の數へ易い罫紙を用ひること

〆切 毎月二十五日

宛名 日本幼稚園協會内幼兒の教育編輯部